

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03369

研究課題名(和文) 能楽及び能楽研究の国際的定位置と新たな参照標準確立のための基盤研究

研究課題名(英文) Establishing an international reference standard for a comprehensive study of Noh

研究代表者

山中 玲子 (Yamanaka, Reiko)

法政大学・能楽研究所・教授

研究者番号：60240058

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は総合芸術である能楽を対象に、国内外の研究者の共同研究を通じ、「文化史的視点の導入による能楽史の再編制」および、「比較演劇学的観点による能楽の分析」を行なった。能楽論や作品の分析、歴史的過渡期の能楽のあり方や能楽の宗教的背景等、資料に基づく従来型の研究を強力に進めるとともに、現代の能楽の経済基盤や人材育成、素人の問題、近現代の知識階級と能楽の関係、能楽に関わるマテリアル研究等、多くの新しい問題にも取り組んだ。これらをまとめ、能楽および能楽研究に関して必要十分な最新の研究成果と情報を英語で提供する『英語版能楽全書』の刊行に向けて、現在編集作業を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本と欧米の研究者の共同研究による本プロジェクトの成果は、比較演劇学的視点やカルチュラル・スタディの成果等をも取り入れた、開かれた能楽研究への第一歩である。能楽史研究、演出・技法研究、宗教思想との関わり等、近年日本国内で大きく進展している研究分野の最新成果をいっせいに海外に発信することで、能楽研究の参照標準を提示するとともに、他の学問領域との新たな連携への道も開いていくことになる。また、こうした成果は、能楽研究者のみならず世界の他の演劇や身体芸術の研究者・実践者・愛好者等の関心を呼び起こすことになり、能楽がより広く人類全体の財産として認識されることにも繋がるはずである。

研究成果の概要(英文)：This research project was focussed on noh drama, a “Gesamtkunstwerk” integrating different artistic media. Through the joint research of Japan-based and overseas specialists, we have conducted a re-evaluation of the history of noh drama from a cultural-historical perspective together with an analysis of noh drama from the viewpoint of comparative theatre. The project drew on the strengths of document-based research, including analyses of noh plays and theoretical writings about noh theatre, the study of how noh evolved at times of rapid historical change, and investigation the religious background to noh. The project also broke ground by dealing with the new topics such as the economic basis of the contemporary world of noh theatre, the issue of amateur participation, and the study of material culture of noh. The findings of research in each of these fields will be made available to readers of English in the form of an English-language companion to noh studies.

研究分野：能楽

キーワード：能 狂言 文化史 演出 世阿弥 能面

1. 研究開始当初の背景

能楽は、600年以上途切れることなく演じ続けられてきた日本の古典芸能であるとともに、現代に生きる演劇の重要な一つとして国際的にも注目されている。だが、従来の能楽研究はおもに「国文学」を中心に発展してきたため、文献に基づく精緻な研究を積み重ねてきた反面、研究が狭く内側に向き、外国人研究者との関わりも限定的になりがちであった。総合芸術である能楽に関心を持つ多彩な領域の研究者や実演者に向け、最新の研究成果を十分伝えることができていなかったのである。そのため、新鮮な着眼点による海外での研究が、戦前の古い注釈に基づく翻訳や能楽史上の俗説を拠り所にしてきたこともままたり、逆に、能楽を世界の演劇の中に位置づけようとするれば必須の課題が、日本の能楽研究では顧みられないことも多い。世界の演劇の研究者や実践者との間で研究的対話が成り立ちにくいのが実情であった。本研究課題は、こうした状況を打破り能楽を現代に生きる世界の演劇の中にしっかりと位置づけるために計画された。

2. 研究の目的

(1) 総合芸術である能楽が異分野の研究と多面的に結びつき展開していくための基盤を構築することを目的とする。そのため、国内外の研究者による共同研究を組織し、その遂行を通して、能楽研究の国際的参照標準となる最新の研究情報を発信することをめざす。
(2) 本研究計画の最終的なゴールとして、個々の論文執筆や学会発表などとは別に、全体の成果を踏まえた『英語版能楽全書』の刊行を実現する。

3. 研究の方法

(1) 日本人研究者と外国人研究者がそれぞれの専門領域によってペアまたはグループを作り研究を進めるとともに、英語版能楽全書のための英語原稿を作成する。日本人が書いた論文を外国人が英訳するだけ、外国人が英語で論文を書くのに必要な情報を日本人が提供するだけ、といった従来ありがちだったスタイルに陥らないよう、対等な議論を重ねていく。
(2) 「文化史的視点の導入による能楽史の再編制」「比較演劇的観点による能楽の分析と国際的的定位」という2つの柱のもと、(1)で組織した研究グループにより、以下の5つの課題を解決していく。

文化史的視点になった新しい能楽史の叙述：時代の転換期の重要性、能楽の多様な担い手や享受者の存在も視野に入れたうえで、歴史資料を十分に活用した確実な知見を提示する。

現代の能楽をとりまく諸問題の分析：独特の興行形態、技芸伝承、近現代思想との関わり等、従来系統だって研究されてこなかった現代の能をとりまく問題につき、能役者への聞き取り調査や能に関する言説の収集と分析等を通して明らかにしていく。

脚本・演出・能楽論の比較演劇的観点による分析：西欧演劇とは異なる世阿弥の演劇理論、脚本・演出上の独特の決まりごとやその背後にある考え方等について、作品や演出の分析と能楽論の分析との両面から明らかにしていく。

能楽の宗教的背景の研究：寺院資料・仏教思想・中世神道等の研究蓄積を踏まえ、能に描かれる鎮魂・草木成仏等のテーマや、密教・浄土教・修験道等との関係について問い直す。

比較演劇史的観点からの分析：イエズス会文書を博捜し、16世紀の能楽の姿が同時代のイベリア半島の演劇になじんだ宣教師たちの目にどう映ったか、資料に基づいて明らかにする。

4. 研究成果

(1) 上記 から に対応する主な研究成果は以下の通りである。

観阿弥が座を創立した場所についての通説とは異なる新見が示されたほか、猿楽の座と寺院との関係、戦国期を経て江戸の幕藩体制が固まっていく間に多くの武士が能楽の担い手になっていく過程、地方諸藩における能楽の様相、幕末から明治維新の混乱期の能界の状況、軍国主義と能楽等々、多くの新しい知見が論文化された。文献資料だけでなく、能楽を描いた絵画についての研究、能面の作者や楽器類の変遷についての研究も進み、それぞれ論文化されている。

は個別の研究成果が最も多くあり、かえって英語版能楽全書としての包括的な英語原稿には遅れが出ているが、現在鋭意進行中である。このほか、女流能、地方の民俗芸能として残る能楽の諸相についての研究成果も、すでに英語原稿としてまとめられている。

現代の能楽の、一般演劇とは異なる興行の仕組みとその淵源、学校教育やオーディションに頼らない独特の能楽師養成のシステムや、芸の伝承の仕組み、役者の経済基盤、世界の他の演劇とは異なる素人のあり方等を分析し、近代以降に形成され比較的順調に機能していたシステムが21世紀になり崩壊しつつあることも明らかにした。これらはすべて英語版能楽全書の原稿としてまとめられているほか、一部は個別に論文化している。欧米と日本、それぞれの近現代思想と能楽がどのように関わったのかの考察や、現代思想と能楽を結びつけるキーパーソンとしての観世寿夫についての研究も進み、論文化や英語原稿化がおこなわれた。

能楽論、能の作品論、演出・技法研究等は、の能楽史と同様に従来の能楽研究において蓄積のある分野だが、国外の研究者と組むことで新しい展開が生まれた。能楽論については、世阿弥能楽論の英語訳や分析に多くの業績を持つ外国人研究者を研究協力者とし、西欧演劇とは

まったく異なる世阿弥の演劇理論の特徴を明らかにするとともに、近年国内での進展著しい金春禅竹の能楽論についても独特の用語の英訳などについて討議を重ねたうえで英語原稿化した。脚本構造や演技・演出に関しては、「様式性、類型化、抑制」といった紋切り型の説明で終えず、なぜ類型化が可能なのか、抑制が効果を持つために何が行われているのかまで踏み込み、ミニマリズムの演技が豊かな表現を持ちうるために作られた脚本や演出のシステムを明らかにした。最も特徴的な夢幻能についても、記憶・回想・夢・無意識等の問題と組み合わせで国際・学際的な場でのディスカッションを重ね、原稿化に繋げた。これらは最終的には英語版能楽全書のために原稿化されたが、その過程で、詞章のナラトロジー的分析、能作品と素材となった古典作品との関係、能が先行芸能から受け継いだリズム形式、能の型ができあがる歴史のプロセスや即興と型との関係等について、個別の研究成果が生まれ、論文や学会発表となっている。

能楽の宗教的背景に関しては、現行曲を対象として能の作品中に引用される偈句・経文類や仏教語句（神仏習合関係の語句も含む）を抽出したデータベースを作った。周辺の詞章、場面説明なども入力し、合わせてデータベース化し、抽出した各語句の一部には注釈を施す作業も進めた。この用例抽出と、注釈作成を進める中で、これまで語句の成立背景・典拠が明らかでなかった多くの難解句について、背景と意味を注釈的に明らかにできた。また、例えばある語句がある經典の語句の引用であるという典拠がすでに知られていたとしても、その語句がなぜその能作品中で用いられているのか、これまで文脈を十分に説明できていなかった場合が多くある。そうした仏教関係語句に関して、能以外の当該句の引用例の中に、能作品での引用のされ方と類似した文脈を見出すことで、これまで知られていなかったその語句の中世における意味を明らかにできた例も多い。近年、様々な寺院調査が進む中で多くの宗教文献が紹介されており、そうした文献も含めて用例を収集した上で、能作品の中での仏教語句の意味を明らかにし、ひいては作品のテーマに迫ることができた。

16～17世紀日本関連のイエズス会文書については、大英図書館、スペイン王立歴史アカデミー、スペイン国立文書館の所蔵する16～17世紀日本関連文書のほぼ全点の画像（合計約21,000枚）を、所蔵各館の御厚意により入手し、その整理や既存の翻刻データの誤訂を行った。演劇関連記事は150件あまりの抽出を終えたが、翻訳の作業を十分に進めることができず、これらの記事を日本の能楽研究者とともに十分吟味するまでは至らなかった。イエズス会記録の位置についての国際シンポジウムを開催し、そこでは能楽研究の側からも宗教劇に関する発表を行ったが、二つの研究領域が深く結びつくところまではいかず、今後の課題として残っている。

(2) 個別の学会発表や論文執筆とは別に、能楽および能楽研究に関して必要十分な最新の研究成果と情報を英語で提供する『英語版能楽全書』の刊行に向けて、原稿執筆を進め、現在、英語原稿が完成またはほぼ完成し、編集段階に入っている。同書の概要は以下の通りである。

序：総説・研究史。

- 1：能楽の演技・演出（舞台・音楽・所作・小段システム・面装束・装置・替演出等）。
- 2：能の歴史（起源・転換期に注目した通史・大航海時代の能楽・流派と家元制度・女流能の歴史・地方に根付いた能等）。
- 3：現代の能楽を成り立たせているシステム（修行過程、興行のシステム、観客、経済基盤、素人と玄人等）。
- 4：能の文化・能と文化（能作品の分類と類型・能の素材・新作能と番外曲・脚本構造・レトリック・能の世界観・能と秘事秘伝・能とギリシア悲劇等）。
- 5：能の受容（江戸時代の能楽受容・外国人と能楽の出会い・能と映画・能と現代演劇・能と現代思想等）。
- 6：作者（観阿弥・世阿弥・元雅・禅竹・信光・禅鳳・長俊・宮増・素人作者）。
- 7：能楽伝書と評論（世阿弥の能楽論・禅竹の能楽論・室町後期の能楽伝書・戦国期以降の能楽伝書・近現代の能楽評論等）。
- 8：モノとしての能（謡本・型付・手付・能狂言と絵画・面と作者・楽器・装束・舞台等）。
- 9：狂言（狂言とは何か・作品の類型と構造・演技演出の特徴・修行過程・外国における狂言の受容と展開等）。

付：現行曲の概要一覧・用語リスト・参考文献リスト等。

(3) 本研究課題では「国際的な研究基盤の構築」を目指したため、国際学会での発表も積極的に行なった。2016年には上智大学で行なわれた国際シンポジウム「キリシタン時代の宣教に伴う演劇の言語」にての発表1本、2017年にはEAJS大会にて研究発表5本（一般演劇とは異なる能楽の興行形態、学校教育やオーディションに頼らない独特の人材育成システム、能楽における素人の役割、謡曲独特のレトリック等について）、2018年にはミュンヘン大学でのシンポジウム“Japanese Literature and Historical Narratology”で英語発表1本、テルアビブ大学での国際学会“Creation, Preservation and Transformation of Theatre Traditions: East and West”で、能の演出、型の形成に関する研究発表2本と招待講演1件、スペイン自治大学での国際学会にての招待講演（イエズス会文書に関する）1本、2019年にはピッツバーグ大学での国際シン

ポジウムでの招待講演 1 件、ピッツバーグでの招待講演（英語通訳付き）以外はすべて英語で行なわれた。このほか、学会発表ではないが、2018 年にロンドンで行われた Noh Reimagined 2018 においては、脳科学、神経美学の研究者らとともに夢幻能で描かれる夢やイリュージョンについて多方面から考える場で 1 名が発表（英語）したほか、能の仮面、所作、独特の表現様式について 2 名がレクチャー（英語通訳付き）をおこなった。

（４）ウェブ発信に向けての準備

研究成果のうち、書籍以上にウェブサイトでの発信が有効と思われる一部（装束・面研究や演出に関わるものなど）は、書籍刊行に先駆けて、JPARC（Japanese Performing Art Research Consortium）の中の能楽に関するサイト <https://jparc.online/nogaku/> での解説にも利用している。JPARC は、立命館大学アートリサーチセンター、京都産業大学、法政大学能楽研究所、京都市立芸術大学、東京文化財研究所、コーネル大学、スタンフォード大学、シンガポール国立大学等の研究者が協同して立ち上げた、日本の古典芸能及びその研究に関する情報を発信するためのサイトである。

上記のほか、未公開のものだが、1952 年から 2010 年までの、能狂言のテレビ放送に関するデータ 1,585 件（放送年月日、演目、演者、流派から検索可能）を整理した。また、研究分担者の高橋悠介が中心になって作成を進めている、能作品の仏教関係語句に焦点を当てたデータベースとも連携し、能の作品ごとに、梗概や作者・素材、引用される仏教関係語句、室町期上演情報、演出情報などをまとめて表示するサイトを現在準備中である。2020 年度早い段階からの順次公開をめざす。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 高桑いづみ | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 長唄「クルイ」考序説 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 楽劇学 | 6. 最初と最後の頁 1-20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高橋悠介 | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 『玉伝深秘巻』の宗教的基盤一付、室町後期神祇書における受容 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 仏教文学 | 6. 最初と最後の頁 19-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高橋悠介 | 4. 巻 246 |
| 2. 論文標題 金春禅竹と自然表象 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 アジア遊学 | 6. 最初と最後の頁 180-193 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 35 |
| 2. 論文標題 鎌倉・南北朝期の春日若宮おん祭と猿楽 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 春日若宮おん祭 | 6. 最初と最後の頁 24-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 山中玲子 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 修羅能以前の「平家の能」 経盛 の再検討を通して | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 軍記物語講座 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 竹内晶子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 能とオラトリオ試論 合唱・ナレーション・宗教的機能という観点から | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 中世に架ける橋 | 6. 最初と最後の頁 159-180 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 玉村恭 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 観世寿夫と 江戸 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 中世に架ける橋 | 6. 最初と最後の頁 283-302 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 横山太郎 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 「現代思想」と能 一九七〇～八〇年代を中心に | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 中世に架ける橋 | 6. 最初と最後の頁 303-332 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 面打井関備中守追考 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 41-58 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 面打角坊考 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 59-82 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 山中玲子 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 Fraternizing with the Spirits in Noh Plays Saigyozakura and Yamamba | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Ca' Foscari Japanese Studies | 6. 最初と最後の頁 133-140 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14277/978-88-6969-171-3/CFJS-7 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高橋悠介 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 散逸曲 仏頭山 の題材と環境 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 130-137 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高桑いづみ | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 能の囃子の成立過程 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 国立能楽堂開場35周年記念企画展図録「囃子方と楽器」 | 6. 最初と最後の頁 18-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Diego Pellicchia | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Time in noh theatre performance and training | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Time and Performer Training | 6. 最初と最後の頁 43-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 キリシタン版の表紙絵裏の本文の印刷に就て | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 上智大学国文学論集 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 著者名 山中玲子 | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 通盛 前場のシテ・ツレ登場段をめぐって | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 95-103 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山中玲子 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 源氏物語と能楽研究 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 36-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 金春家本面の復元 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 76-92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Pellecchia, Diego | 4. 巻 27-1 |
| 2. 論文標題 Noh Creativity? The role of amateurs in Japanese Noh theatre | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Contemporary Theatre Review | 6. 最初と最後の頁 34-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 大和猿楽の成立と展開 古代から中世へ | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 日本文化の源流 | 6. 最初と最後の頁 109-126 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高橋悠介 | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 能の亡霊と魂魄 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 30-43 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高桑いづみ | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 地拍子の古態—早歌からの継承— | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 67-77 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 著者名 山中玲子 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 『御世話筋秘曲』の解説と復元の記録 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 91 112 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 「御家石橋」の成立と相伝の経緯 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 113 140 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造 | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 観世座と伊賀 「幽玄」以前 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 紫明 | 6. 最初と最後の頁 10-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 竹内晶子 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 語りとセリフが混交するとき 世阿弥の神能と修羅能を考える | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 能楽研究 | 6. 最初と最後の頁 1-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 14件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 山中玲子 |
| 2. 発表標題 いくさと能 |
| 3. 学会等名 Gettysburg Symposium (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高橋悠介 |
| 2. 発表標題 身体論の中世的展開と五蔵説 |
| 3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山中玲子 |
| 2. 発表標題 Variant stage directions in Noh: signs of creativity or authority? |
| 3. 学会等名 Creation, Preservation and Transformation of Theatre Traditions: East and West (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 横山太郎 |
| 2. 発表標題 Repression of Free Acting in Noh: Media that Describe Kata(patterns) in Modern Times |
| 3. 学会等名 Creation, Preservation and Transformation of Theatre Traditions: East and West (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 竹内晶子 |
| 2. 発表標題 Fusion of Narration and Characters' Speeches in Noh: Its Socio-religious Function in Deity Plays |
| 3. 学会等名 Japanese Literature and Historical Narratology (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 豊島正之 |
| 2. 発表標題 Normative and descriptive grammars -- adaptation of the Iberian trend by the Jesuits in Japan |
| 3. 学会等名 Japon y el Siglo de Oro espanol en un conexto global (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 児玉竜一 |
| 2. 発表標題 The Concept of 'Theatre Tradition' in Japanese Culture |
| 3. 学会等名 Creation, Preservation and Transformation of Theatre Traditions: East and West (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 高橋悠介 |
| 2. 発表標題 能に描かれた紀州の神仏 《巻絹》について |
| 3. 学会等名 紀州地域学共同研究会研究集会シンポジウム |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山中玲子 |
| 2. 発表標題 How is a Noh professional trained? |
| 3. 学会等名 EAJS 15th International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮本圭造 |
| 2. 発表標題 For whom is noh staged? Training fo the actors or performance for the audience? |
| 3. 学会等名 EAJS 15th International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Pellecchia, Diego |
| 2. 発表標題 A comparative look at amateur practices in noh and contemporary theatre |
| 3. 学会等名 EAJS 15th International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 横山太郎 |
| 2. 発表標題 Poetics of Chained Sentences: Kakekotoba and Engo in Noh Texts |
| 3. 学会等名 EAJS 15th International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 竹内晶子 |
| 2. 発表標題 Whose Words(and to Whom)?: Fusion of Narration and characters' Speeches in Noh |
| 3. 学会等名 EAJS 15th International Conference' (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高橋悠介 |
| 2. 発表標題 春日社と南都の律家をめぐって 禅律仏教 / 室町將軍 / 勸進猿樂 |
| 3. 学会等名 能楽学会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------|
| 1. 発表者名 横山太郎 |
| 2. 発表標題 わざの継承と型付 |
| 3. 学会等名 能楽学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮本圭造 |
| 2. 発表標題 How to reconstruct the Noh theatre in the late 16th centuries |
| 3. 学会等名 Languages of Theatre in the Christian Mission in Japan (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 前田雅之、山中玲子、犬丸治、小川佐和子、安藤徹、小川陽子、久米依子、津島知明、塩見優、寺田澄江、立石和弘 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 竹林舎 | 5. 総ページ数 320 (29-54) |
| 3. 書名 新時代への源氏学10 『メディア・文化の階級闘争』 | |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 宮本圭造、金春安明、高橋悠介、石井倫子、深澤希望、小林健二 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 法政大学能楽研究所 | 5. 総ページ数 206 (33-59) |
| 3. 書名 能楽研究叢書7 『金春家 文書の世界 文書が語る金春家の歩み』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

Japanese Performing Arts Research Consortium <https://jparc.online/nogaku/>
 のうち、Nogaku (能楽) 部門の、Performance と Illustration に関する部分には、本研究課題の成果を反映させている。歴史や作者・作品については既存の解説が入っているが、今後逐次、入れ替えていく予定。

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 豊島 正之 (Toyoshima Masayuki) (10180192) | 上智大学・文学部・教授 (32621) | |
| 研究分担者 | 児玉 竜一 (Kodama Ryuichi) (10277783) | 早稲田大学・文学学術院・教授 (32689) | |
| 研究分担者 | 竹内 晶子 (Takeuchi Akiko) (10409344) | 法政大学・国際文化学部・教授 (32675) | |
| 研究分担者 | M G Watson (Watson Michael) (20190283) | 明治学院大学・国際学部・教授 (32683) | |
| 研究分担者 | 林 容市 (Hayashi Yoichi) (40400668) | 法政大学・文学部・准教授 (32675) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 高橋 悠介 (Takahashi Yusuke) (40551502) | 慶應義塾大学・斯道文庫（三田）・准教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 玉村 恭 (Tamamura Kyo) (50575909) | 上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (13103) | |
| 研究分担者 | 高桑 いづみ (Takakuwa Izumi) (60249919) | 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・その他部局等・特任研究員 (82620) | |
| 研究分担者 | 宮本 圭造 (Miyamoto Keizo) (70360253) | 法政大学・能楽研究所・教授 (32675) | |
| 研究分担者 | ペレッキア ディエゴ (Pellecchia Diego) (70802164) | 京都産業大学・文化学部・准教授 (34304) | |
| 研究分担者 | 横山 太郎 (Yokoyama Taro) (90345075) | 立教大学・現代心理学部・教授 (32686) | |
| 研究協力者 | ベーテ モニカ (Bethe Monica) | | |
| 研究協力者 | ヘア トーマス (Hare Thomas) | | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|-----------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | グロスマン アイケ (Grossmann Eike) | | |
| 研究協力者 | 伊海 孝充 (Ikai Takamitsu) | | |
| 研究協力者 | 中司 由起子 (Nakatsuka Yukiko) | | |
| 研究協力者 | 深澤 希望 (Fukazawa Nozomi) | | |